



新1年生にランドセルカバーと傘を寄贈 —交通安全協会日高町分会—

交通事故ゼロを願い、交通安全協会日高町分会(北垣順一会長)から、この春小学校に入学した新1年生児童に黄色のランドセルカバーが贈られました。

同会からは、他にも蛍光色の傘が贈られ、車から身を守ると共に、会長から「決して道路に飛び出さないように」と交通ルールについて教えてもらいました。



令和6年 和歌山県知事表彰 —北垣順一氏(志賀)・北村涼子氏(比井) 受賞—

5月27日(月)、アバローム紀の国で令和6年和歌山県知事表彰式が行われ、日高町から交通安全で北垣順一氏、統計調査で北村涼子氏が受賞されました。功績は次の通りです。

北垣順一氏

昭和51年4月1日から日高町交通指導員として県道、町道の交通安全施設(標識、カーブミラー、ガードレール等)の設置を県、町に強く働きかけ早期に実現しました。また、平成21年より指導員会長として町内の幼児、児童、生徒に対し自転車交通安全教室を開催するなど、常に地域住民の交通安全のため交通事故防止と交通指導につとめられました。



北村涼子氏

統計調査員で平成7年以降、工業統計や国勢調査、また商業統計を始め、長年の間多岐に渡って統計調査に務められました。

豊富な経験と知識から、調査対象者に対する丁寧な対応と、正確性を期した調査書類の点検により、回収率の向上と調査の精度向上に多大な貢献を果たしました。

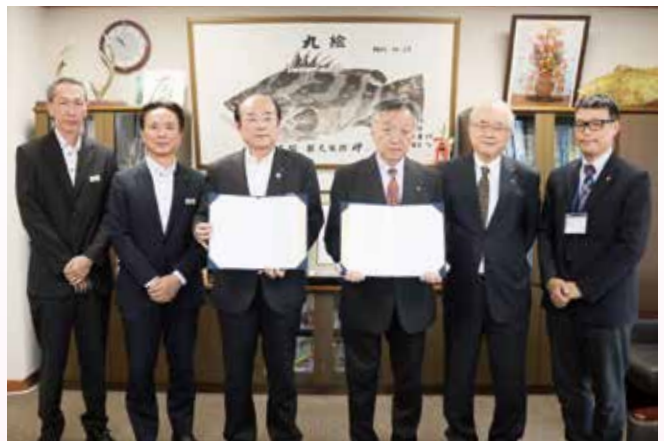


6月4日(火)、日高町は県司法書士会(井澤徹会長)と災害時における被災者相談業務の実施に関する協定を締結しました。

町長室で調印式を行ない、松本町長と井澤会長が協定書に署名、押印。松本町長は「大規模災害発生時には、司法書士による相談業務を行なうことで住民の不安解消を図れ、非常に心強く思う」と述べ、井澤会長は「土地や建物の所有者が分からないなどの問題がクリアできないと復興が進まない。県内の会員167人だけでなく、もしもの場合は近畿などからも派遣して対応させていただきます」と話されました。

この協定は、災害発生時、町要請に基づき司法書士を派遣し、住民からの土地などの不動産やローンの相談を受け付け、生活再建をサポートするものです。

住民の生活再建を支援 —災害時被災者相談業務協定—



サイン+サンクス運動とは

横断歩道を渡るときに横断の意思を伝えること(サイン)+譲ってくれたドライバーに感謝の気持ちを会釈などで伝えること(サンクス)で、運転者に横断歩行者保護の意識を向上させ、横断歩行者の事故を抑止することを目的とした運動です。



自転車に乗る前はしっかり点検 —志賀小・内原小で交通安全教室—

6月3日(月)、5日(水)に、それぞれ志賀小学校、内原小学校で交通安全教室が開かれ、児童らが自転車の点検方法や乗り方、横断歩道の渡り方について学びました。

この教室は、御坊警察署員、日高町交通指導員の協力のもと開かれたもので、グラウンドに描いたコースを使って道路の通行や横断を練習しました。

また、志賀小学校がサイン+サンクス運動の推進校に認定されました。



美味しいお米になあれ —志賀小・内原小で田植え体験—

6月7日(金)に志賀小学校の5年生の児童らが橋本康秀さんの田んぼを、10日(月)に内原小学校の5年生の児童らが山崎進さんの田んぼを借りて、地元農家のみなさまの協力のもと、田植え体験をしました。

子どもたちは冷たい水と土の感触に大はしゃぎしながら苗を植えました。

